

DNAのなせるわざ

九州グラビア協同組合
理事長 母里圭太郎



この度、印刷功労賞を受賞いたしました。皆様からの温かいお言葉に深く感謝申し上げますとともに、今後とも一層の努力を重ねていくことを固く心に誓い、日々の業務に邁進していく所存でございます。

ということで、今年2回目の巻頭言執筆の御依頼を承りました九州グラビア協同組合の母里です。

九州グラビア協同組合（九グラ）は昭和45年1月設立、長年にわたって地域の同業の交流の場となり、全国の組合と連携して業界の活性化・発展に寄与してまいりました。九グラには様々な情報を共有し、組合員同士の助け合いをそっと後押しする良い文化が根付いています。これは諸先輩方が長年育み、組合員の豊かな個性がブレンドされた、いわば老舗ラーメン店の大切なスープです。私は理事長という立場ではありますが、このラーメンに放りこまれた「替え玉」です。スープとからんで良い伝統・DNAをつないでいければと思っています。

「印刷の月」記念式典の翌日から青年部全国大会に参加させていただきました。全国からとびきり活きのいい仲間達が集まり、素晴らしい2日間でした。旧知の仲間・初めての仲間との出会い、政局が動く時期にタイムリーな講演、長旅の疲れを癒す金の湯・銀の湯、最多入場者数を更新した日の大阪・関西万博！全てがその瞬間その場所でしか体験できない貴重な時間でした。企画・運営をしていただいた関西グラビア協同組合青年部の皆様方、ありがとうございました。

今回の大会で2016年にスタートした青年部全国大会が東海、九州、関東を経て関西まで回りました。Welcome backです。青年部全国大会の立ち上げにご尽力いただいた竹下晋司関西グラビア前理事長に感謝いたします。本当にありがとうございます、九州に来られたらラーメンをご馳走させていただきます。

全国それぞれの青年部には、各単組（親会）のDNAが引き継がれながら新たな個性が芽吹いています。機転が利いて行動の端々にスマートさが光る関東の青年部、溢れるホスピタリティ・バイタリティの関西、グラビアへのこだわりが最も感じられる「グラビアで天下とったる」東海、多士済々な顔ぶれを眺めながら九グラ青年部をゆっくり振り返りたいのですが、2日間の行程中はハプニング連発で笑ってばかり、運営の方々には頭が下がるばかりでした。改めて考えてみました。「これ美味しいけん、食べり」というのが九州人らしい日常会話ですが、慣れていないと若干おせっかいに感じます。おばちゃんという言い方はコンプライアンス上できませんが、年配の御婦人方においては「たべり、たべり」と連発されるので少し困ります。仕事においても自分達がやってみて良かったことを相手に勧めたいという気持ちがあったとして、この勧め方を押しつけがましくなく上手にできれば九グラのDNAが上手く発現できるように思います。

DNAの研究分野にエピジェネティクスという言葉があります。環境や行動などの要因によって、DNAが発現するかしないかが決まるメカニズムを研究する学問だそうです。世代を超えて受け継がれてきて、いま自分に備わっている特徴だけでなく、眠っているDNA・様々な可能性が自分のまわりの環境や自分自身の行動によって発現する、逆に言えば、これまでの環境や行動によって一部のDNAは眠ったままになっているかもしれないということです。

自社の中から飛び出して地域の同業の輪に入り、全国に出てさらに多くの出会いを経験し、様々な考え方に触れて新しい知見を得ることにより眠っていたDNAを呼び覚まし新たなチャレンジにつなげていければ、組合員各社ひいては組合の組織・業界全体が力強く成長していけます。

青年部全国大会の初日の夜、賑やかな宴会の会場で「これから、勇気をもって印刷機の更新を進めていきます」という声が耳に入りました。声の主の対面で田口会長が目を細めています。多くの経営課題に日々立ち向かいながら、胸の中に渦巻く思いを同じ仲間達や先輩方にぶつけていく光景を見て胸の奥が熱くなったのは、さっき飲み干した日本酒のせいです。うちの青年部部長は瓶ごと飲み干していました。これもまたDNAのなせるわざかもしれません。素晴らしい仲間達に乾杯の夜でした。

小山薫堂氏と野地秩嘉氏による 「印刷と私」トークショー開催

2025年10月15日（水）に執り行われた「2025GP 環境大賞等表彰式」に続き、脚本家・放送作家で GPPR 大使を務める小山薫堂氏と、「トヨタ物語」や「伊藤忠 商人の心得」など多くの著作を手掛けるノンフィクション作家の野地秩嘉氏による「印刷と私」トークショーが開催された。ここではその抄録を掲載する。



野地氏

野地 良い会社にはイノベーションがある。イノベーションは、技術革新とも訳されるがこれとは別もの。例えばコンビニのおにぎり。1978年まではパリパリした海苔のおにぎりは存在しなかった。どこかの店で「パリパリの海苔で食べたい」と思った人がいて、今ではどこでも、このおにぎりが食べられる包装が生まれた。これがイノベーションであり、理系でなくても起こせるものだ。

小山 物理学者の湯川秀樹さんの家を買わないかと言われたことがある。その家で「1日生きることは、1歩進むことでありたい」という言葉を見て、それがイノベーションだと感じた。1ミリでも進めばいい。

野地 改善は大きな進歩でなくていい。伊藤忠商事にもイノベーションがある。サラリーマンで15年くらい社長・会長を務める岡藤正広会長は、社員が楽しめることだけを考えて。出張帰りの社員のために一流ホテルよりも良いシャワー室と仮眠室を用意し、バスタオルの銘柄まで決めた。早朝出社の社員にはコンビニで無料の朝食を3つまで提供できるようにし、病気や亡くなった社員の子供には大学院卒業までの学費を支援している。

伸びる会社、強い会社は長期で経営を考える。1年でできることは限られ、目標も低くなる。だから社長・会長を長く務めることが重要だ。岡藤さんは「社会のために」ということを考えることが長く社長を続ける条件だという。一方、オーナー企業は家のために経営した方がパフォーマンスが上がる。ただし、トヨタは少し違って、「日本のため」「社会のため」に動いている。

小山 なぜ「社会のため」と考えた方が長続きするのか。

野地 皆が1つになれるテーマであり、「社会のため」と言って反対する人はいないから。

小山 良い会社になるためには何から始めたらいいのか。

野地 労働環境の整備。狭い部屋や古いパソコンでは誰も頑張らない。就職人気を上げ、優秀な女性に働いてもらうことを考える。岡藤さんはトイレをきれいにし、保育園の整備などをした。その結果、総合商社に入りたい女性が伊藤忠を選ぶようになった。

小山 京都の下鴨茶寮という料亭を引き継いだ際、最初に変えたのは芸舞妓さんの控室だった。倉庫のような場所を庭の見えるおしゃれな部屋に変えて使ってもらった。すると芸舞妓さんたちが「下鴨さんは良くなった」と口にし、周囲の印象も変わった。

野地 トヨタは数字を追わない。目指すのは世界一、日本一でもない町一番の販売店。豊田章男さんが社長になったとき、「良い車を作ろう」と言った。他社との比較ではなく、自分たちなりの車を作ればいいのかと。比較ばかりでは楽しくないし、数字を追うと疲れる。

小山 「前年比」という言葉も前年を下回っていたら失敗というイメージになるが、そこに新しいヒントが見つければ失敗ではない。

野地 数字より顧客のことを考えた方が会社は伸びる。



小山 GPPR 大使



GP JAPAN

全グラ情報

2025年11月号 No.300 全国グラビア協同組合連合会

今月の表紙



上段・下段左：10月15日に開催されたGP環境大賞等表彰式の様子、下段右：東京都中小企業団体中央会「創立70周年記念表彰式」にて表彰を受けた関東グラビア協組の4名。詳細は7、12～15頁参照

CONTENTS

巻頭言 DNAのなせるわざ ①

九州グラビア協同組合 理事長 母里圭太郎

Talk Show ③

小山薫堂氏と野地秩嘉氏による「印刷と私」トークショー開催

全グラ

全国グラビア協同組合連合会：印刷技能人材機構第2回理事会を開催、全グラ田口会長、吉原理事らが出席 ⑥

単組活動報告、企業トピックスなど随時募集、「GP JAPAN」へ原稿を掲載しませんか ④⑩

組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合：東京都中小企業団体中央会「創立70周年記念表彰式」、関東グラビア協組から5名が表彰 ⑦

東海グラビア印刷協同組合：令和7年度例会・懇親会を開催 ⑧

関東グラビア協同組合：定例理事会を開催 ⑩

JFPI ⑫

北四国グラビア印刷、巧芸社、賀谷セロファンが受賞
(一社) 日本印刷産業連合会 2025GP環境大賞等表彰式

展示会レポート～ JAPAN PACK 2025～ 16

包装の持つポテンシャルとテクノロジーを融合

報告者：全国グラビア協同組合連合会 専務理事 下田幸二

賛助会員の話題 17

(株)シンク・ラボラトリー：水性IJ印刷機を活用した理想的なパッケージ製造工場の構築

酒は永遠の友 vol.10 田口 薫 18

Data Watch 2025年7月データ 20

紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2025年8月… 26

GP工場認定制度無料説明会のご案内 30

GP認定制度申請についてのお願い 32

Information

サカティンクス、森脇鉄工・エムエム建材と協業し、グラビア版シリンダーのリサイクル実証実験開始 9

日本女子大学・カナオカHD、「電子レンジ用包材」に関する共同研究を開始…… 31

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円＋税です。

購読および広告出稿を希望される方は、
全国グラビア協同組合連合会まで。
e-mail : zenkoku-grv@jfpl.or.jp



発行：2025年11月10日

発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）

発行所：全国グラビア協同組合連合会

〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9

あさひ墨田ビル

TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814

編集スタッフ：下田幸二（全国グラビア協同組合連合会専務理事）

酒井由香（同）

編集協力：(株)加工技術研究会

印刷：(株)DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2025

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

全国グラビア協同組合連合会

印刷技能人材機構第2回理事会 全グラ田口会長、吉原理事らが出席

2025年9月30日（火）、東京・日本印刷会館5階会議室にて、印刷技能人材機構第2回理事会が開催されました。全国グラビア協同組合連合会（全グラ）からは、田口 薫会長、吉原宗彦理事（関東グラビア協同組合理事長）、下田幸二専務理事、袖山高明顧問が出席しました。

冒頭、臼田真人会長より挨拶をいただいた後、印刷技能人材機構を法人化する件や事業運営等についての真剣な議論が繰り広げられました。同機構は、全日本印刷工業組合連合会（全印工連）、全日本製本工業組合連合会（全製工連）、全グラから役員を選出、運営しており、12名の出席者全員が発言し、活発な意見が出される理事会となりました。

理事会終了後は場所を移し、12名全員参加による懇親会が催され、全印工連、全製工連、全グラの3団体がお互いの親交を深めるとともに、印刷技能人材機構の結束を固めました。



組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合

東京都中小企業団体中央会

「創立 70 周年記念表彰式」

関東グラビア協組から 5 名が表彰

2025 年 10 月 16 日（木）午後 1 時 30 分より、東京都中央区「銀座ブロッサム」において東京都中小企業団体中央会「創立 70 周年記念表彰式」が執り行われました。表彰式に先立ち、ノースアジア大学の野口秀行教授による「2025 年変わる世界、変わる日本」という演題での記念講演が行われました。

表彰式では、国歌斉唱・中小企業団体の歌斉唱、小池百合子東京都知事、東京都中小企業団体中央会の會津 健会長のご挨拶の後、各賞の表彰へと移りました。関東グラビア協同組合からは、長年の組合活動への貢献に対し、山下雅稔氏が「東京都知事感謝状」、吉原宗彦氏、千田 敦氏、橋本章氏、小林直人氏が「東京都中小企業団体中央会会長表彰」を受賞しました。



會津 健会長



小池百合子都知事



野口秀行教授



左から小林直人氏、千田 敦氏、山下雅稔氏、吉原宗彦氏

組合員・単組の近況

東海グラビア印刷協同組合

令和7年度例会・懇親会を開催

東海グラビア印刷協同組合（杉山真一郎理事長、富士特殊紙業㈱）は2025年10月3日（金）、ザ・コンダーハウスにおいて51名参加のもと、令和7年度例会・懇親会を開催しました。



杉山理事長

例会では、杉山理事長の挨拶に始まり、全国グラビア協同組合連合会（全グラ）の報告等について滞りなく行われました。

懇親会では杉山理事長より、当業界内に限らず厳しい状況が続いていること、人手不足が依然として解消されず、外国人材に頼らざるを得ない現状に触れられました。特定技能の受け入れには全グラへの登録が必要であり、今後は育成就労制度においても全グラの組合員である必要があること、会員証を発行するにあたり全グラへの申請手続きについて説明がありました。最後に、このような時だからこそ会員相互に情報共有を行い、業界を盛り上げていきたいと挨拶がありました。

乾杯は杉山理事長の音頭により行われ、参加者同士の親睦を深める貴重な時間となりました。



鈴木取締役営業部長の一本締めで中締め

した。

中締めの挨拶を、正会員を代表してコスモグラビア(株)の柳井社長、賛助会員を代表して浜松ロール工業(株)の鈴木取締役営業部長が行いました。一本締めで締めくくり、盛況のうちに終了しました。



コスモグラビアの柳井社長と
浜松ロール工業の鈴木取締役営業部長

Information

サカタインクス、森脇鉄工・エムエム建材と協業し、 グラビア版シリンダーのリサイクル実証実験開始

サカタインクス(株)は、森脇鉄工(株)、エムエム建材(株)との協業により、グラビア版のシリンダー再資源化に向けた取り組みを開始した。

グラビア印刷を行う印刷会社やコンバーター(パッケージメーカー)では、鉄製の印刷版である「シリンダー」が、リピート印刷に備えて多数在庫されている。その中には不要となったシリンダーも多く含まれているが、廃棄処理に手間がかかるため放置され、過剰在庫となっているのが現状。さらに、シリンダー表面には銅やクロムのメッキが施されており、再生には多くの工程を要するため、スクラップとして埋め立て処理されるケースも少なくない。

今回の実証実験では、グラビア版メーカーであり、シリンダーの回収およびリサイクルシリンダーの製造を手掛ける森脇鉄工と連携し、廃シリンダーやドライ粉(鉄の切りくず)



を、鉄の専門商社であるエムエム建材が回収・再資源化する取り組みを開始した。

サカタインクスは、グラビア印刷業界が抱える課題である過剰在庫のシリンダーを鉄として再資源化する、サーキュラーエコノミーの実現を目指す。これにより、廃棄物の削減だけでなく、新たにシリンダーを製造する場合と比較してCO₂排出量についても削減効果の検証も進める。



組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合

定例理事会を開催

関東グラビア協同組合（吉原宗彦理事長、東京加工紙㈱）は、2025年10月9日（木）午後3時～5時まで、13名の理事・監事・顧問の出席の下、組合事務所とZoomにて定例理事会を開催した。

製袋、スリット、ラミネートへの対応進行中

冒頭、吉原理事長が適正価格転嫁と適正利益確保の重要性について述べた後、下田幸二専務理事より、関東グラビア協同組合への新規加入の申込があった企業2社について説明があり、出席理事らの承認を得て加入することとなった。

続いて、上期決算状況、9月30日開催の全グラ理事らが役員を務める印刷技能人材機構の第2回理事会、9月11日開催の「9月印刷の月」日印産連表彰にて九州グラビア協同組合の母利圭太郎理事長（㈱平野屋物産）、富士特殊紙業㈱の山口圭介常務取締役の受賞などが報告された。

10月16日には東京都中小企業団体中央会創立70周年記念表彰式にて、関東グラビア協同組合から山下雅稔理事（㈱巧芸社）が東京都知事感謝状を、吉原宗彦理事長、千田敦理事（㈱東京ポリエチレン印刷社）、橋本章理事（橋本セロファン印刷㈱）、小林直人理事（八潮化学㈱）が会長表彰を授与されるとの報告があった。



外国人育成就労制度移行に向けた製袋、スリット、ラミネート業界の対応については日本ポリエチレン製品工業会が窓口となって進行しており、全グラとともに特定技能・育成就労に関する専門家委員会（10月6日開催）への参加報告があった。

淀川加工印刷が GP 工場認定取得

山下雅稔理事より、グリーンプリンティング（GP）環境大賞・GP マーク普及大賞・GP 資機材大賞の表彰式等について説明があった。GP マーク普及大賞は、(株)北四国グラビア印刷がゴールドプライズ、(株)巧芸社が大賞、賀谷ゼロファン(株)が準大賞を受賞した。

GP 工場については、淀川加工印刷(株)（関西グラビア協同組合）が新たに認定を取得したことが報告された。これにより全グラの GP 工場は 67、目標の 70 事業所の目標まであと一息となった。

2026 年 1 月から下請法は取適法に改正

安永研二副理事長より、日印産連「印刷産業環境ビジョン 2050」、下請中小企業振興法の一部改正などについて説明があった。2026 年 1 月 1 日施行の「取適法」（通称、35～36 頁参照）について、「今回の改正は弱い立場にある者が買ったとき（発注する物品・役務等に通常支払われる対価に比べ著しく低い代金を不当に定めること）にあっていることを変えていこうというもの。相手と具体的に話をして協議の上で合意してほしい」としていた。また、出席理事らに向け、

10 月 14 日に公正取引委員会・中小企業庁共催で開催される取適法等の改正ポイント説明会にはぜひ参加してほしいと呼び掛けた。

その他、田口 薫最高顧問が厳しい事業環境が続くグラビア印刷業界の現状をインキメーカーなど関連業界へ訴えるために、これまでに執筆した文書の配布について説明があった。下田専務理事からは来年度の賀詞交歓会、労働安全衛生法の新たな化学物質規制（41～48 頁参照）が導入されたことなどについて説明があった。

出席理事・監事・顧問	事務所
	吉原宗彦理事長（東京加工紙(株)）
	安永研二副理事長（東包印刷(株)）
	村野 剛理事（信和産業(株)）
	田口 薫最高顧問（大日本パッケージ(株)）
	山下雅稔理事（(株)巧芸社）
	千田 敦理事（(株)東京ポリエチレン印刷社）
	小林直人理事（八潮化学(株)）
	諸石武士理事（日本パッケージング(株)）
	下田幸二専務理事
	松本 太顧問
	岸本一郎監事（(株)カナオカ）
	Zoom
	佐藤裕芳監事（(株)千代田グラビヤ）
	柴田里香理事（弁護士）

（一社）日本印刷産業連合会 2025GP 環境大賞等表彰式

北四国グラビア印刷、巧芸社、 賀谷ゼロファンが受賞

（一社）日本印刷産業連合会（日印産連）は、2025年10月15日（水）午後3時30分より、東京・神保町の出版クラブホールにて「2025GP（グリーンプリンティング）環境大賞等表彰式」を開催した。GP制度への深い理解と積極的な活用・貢献に寄与したクライアントや印刷会社、資機材メーカーなど22社・団体が選出され、表彰状等が授与された。

GP 環境大賞ゴールドプライズにあわしま堂、大賞は教科書出版の教育芸術社ら3社



日印産連の添田副会長

冒頭、日印産連の添田秀樹副会長は、「日印産連はクライアント企業へGP制度の認知をさらに進め、認定工場へ印刷物を発注してもらうことでサプライチェーン全体の環境負荷低減を目指す」と挨拶。

「GP 環境大賞・準大賞」（一印刷の部、パッケージ印刷の部）は、GPマーク表示印刷品を数多く発注したクライアントを表彰する賞。GP環境大賞を3回受賞した企業・団体には、4回目の表彰時に「GP 環境大賞ゴールドプラズ」が贈呈される。

「GP マーク普及大賞・準大賞」（オフセット印刷部門、グラビア・シール・スクリーン印刷部門、製本・表面加工部門）は、GPマーク表示製品をより多く受注・製造した印刷会社を表彰する賞。こちらも、大賞を3回以上受賞した企業・団体には「GP マーク普及大賞ゴールドプライズ」が贈呈される。

「GP 資機材環境大賞」は、当該年度においてGP資機材認定製品の新規登録数をもっとも多い資機材メーカーを資材、機材の部門別に表彰する賞。

以下に受賞企業を紹介する。

GP 環境大賞ゴールドプライズ

(株)あわしま堂

2025GP 環境大賞

一般印刷の部：(株)教育芸術社、
日本航空(株)

パッケージ印刷の部：竹下製菓(株)

2025GP 環境準大賞

一般印刷の部：あいおいニッセイ同和損
害保険(株)、沖縄市役所、
全国間税会総連合会、
(株)ホンダモビリティ中部

パッケージ印刷の部：チャコット(株)

GP マーク普及大賞ゴールドプライズ

(株)北四国グラビア印刷、六三印刷(株)

GP マーク普及大賞

オフセット印刷部門：宝印刷(株)、
丸正印刷(株)

グラビア・シール・スクリーン印刷部門：
(株)巧芸社

GP マーク普及準大賞

オフセット印刷部門：(株)KASAMA、
大日本印刷(株)、
(株)文伸

グラビア・シール・スクリーン印刷部門：
賀谷ゼロファン(株)

製本・表面加工部門：(株)シュウエイ、
(株)多田紙工



株北四国グラビア印刷営業部の
林 健二部長



(株)巧芸社福岡事業部営業部の
田中宏一郎次長



賀谷ゼロファン株開発部部長兼
営業部の賀谷拓史部長代理

GP 資機材環境大賞

資材部門：日本シーマ(株)

機材部門：(株)リコー

音楽の教科書に GP マークが初採用



教育芸術社の市川社長

GP 環境大賞を受賞した教育芸術社の市川かおり代表取締役社長は、「当社は全国の小学校、中学校、高等学校の教科書などを制作発行する出版社。GP マークは本年度から使われている小中学校の教科書に採用した。GP マークを通じて少しでも環境に関心を持ってほしいという願いを込めている。今後も未来を担う子供たちのためにもますます環境配慮した本づくりに取り組んでいく」と謝辞を述べた。

立場を越えて想いは1つ、印刷物で心をつなぐ



小山 GPPR 大使

最後に、2016 年から GPPR 大使を務める、放送作家・脚本家の小山薫堂氏が登壇。大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「EARTH MART」のテーマ事業プロデューサーを務め、10 月 13 日に閉幕した万博から表彰式当日に東京に戻ってきたばかりだと話す。

「万博会場に初めて行ったのは 2020 年 8 月 10 日。まだ何もなかった埋め立て地で、空が広くて強い風が吹いていた。当時はコロナ禍真っ只中で、各マスコミからは、人が集まっちゃいけない時代に人が集まる場所を、お金をかけて作ることに意味があるのか、バーチャル開催のほうが未来なのでは、とたくさんの向かい風を受けた。でも結果としては大成功に終わり、気づいたことが 2 つある。1 つは人がリアルに集まることの重要性、もう 1 つは立場や価値観が違う人が多くいることを理解したうえで認め合い、一緒に行動を起こすことの大切さ。万博では大屋根リングという約 2 km の円の真ん中に集まっていたが、ここでは GP というもっと大きな円の中でみんながつながり集まっている。GP 環境大賞も印刷会社、クライアント、機材資材メーカーと立場は違うが、

想いは1つだ。印刷物は様々な人の心をつないだり、感動を与えたりする媒体。皆さんの仕事は世の中の感動を作る、ひいては絆を深め未来の社会を作っていく仕事だと感じる」

GPを通じて環境と経済を両立する印刷業界へ



文伸の川井社長

表彰式終了後のトークショー（3頁参照）を挟み、午後5時20分から懇親会が開催された。乾杯の発声を務めたのは文伸の川井伸夫代表取締役社長。「堅苦しい雰囲気は得意ではないので、場を柔らかくしたい」との思いから、昨年自身が発案した紙製のGPメガネをかけて「ここにいるのはGP（グッドピープル）の皆さんだと思っている。このご縁が大きく広がっていく気配を感じているし、期待している」と述べ、杯を掲げた。

中締めは、日印産連GP推進部会長の吉原宗彦氏（関東グラビア協同組合理事長、東京加工紙㈱）が登壇し、「教科書印刷では初めての受賞で大変素晴らしいと思う。地球温暖化は猛スピードで進んでいるが、環境と経済を両立することが企業・団体の使命。それを実現するのがGPだ。印刷業界は環境と経済を両立している素晴らしい業界であることをPRしていきたい」と述べ、三本締めで閉会した。



吉原 GP 推進部会長



参加者もGPメガネをかけて乾杯

EXHIBITION

展示会レポート

～ JAPAN PACK 2025 ～

包装の持つポテンシャルとテクノロジーを融合

報告者：全国グラビア協同組合連合会
専務理事 下田幸二

2025年10月7日(火)～10日(金)の4日間、東京ビッグサイト東展示場(4～8ホール)にて「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展」が開催されました。期間中、33,464名の来場者が訪れ、大盛況の展示会となりました。

主催者側は、包装が「モノを包む」だけではなく、人々の暮らしや社会の基盤を支え、未来を創るための力であることを、ぜひ感じていただきたいとの思いから、「BEYOND|包むで創る人と未来と」をメインメッセージとしました。包装の持つポテンシャルをテクノロジーと融合させ、持続可能で先進的な未来の姿を「包装×DX」と「包装×GX」という2つの視点から取り組みました。550を超える企業や関係機関が最新の製品・技術・サービスを公開しました。



シンク・ラボラトリー

水性IJ印刷機を活用した理想的なパッケージ製造工場の構築

(株)シンク・ラボラトリーは、2025年8月28日(木)、29日(金)の2日間、東京海洋大学の越中島キャンパス(東京都江東区)で開催された日本包装学会の第34回年次大会において同社水性インクジェット(IJ)印刷機について講演を行った。

同社の軟包装用水性IJ印刷機は、独自のアンカーコートレス方式による低テンションのフィルム搬送機構と自社製水性インクの組み合わせにより、ランニングコストを抑えつつ様々なフィルム基材に対応できる。特に熱の影響を受けやすいNYフィルムは、このアンカーコートレス方式と吸着ベルトによる低テンション搬送の利点が生かせる素材であり、ONY/LLDPEの構成をノンソルラミネートで貼り合わせる“完全無溶剤パッケージ”としてPB商品に採用された。食品メーカーでも同機が導入され、紙化した主力製品の印刷をIJ化しており、グラビア印刷の完全な置き換えとして運用している。海外コンバーターでも、グラビア印刷工程を持たない工場拠点に同機を導入し、デジタルIJ印刷に特化した製造がスタートする。

さらに同社はグラビア同等の高品位かつ高性能な包材を目指す開発プラントを構築し、水性IJ印刷機を活用した理想的なパッケージ製造工場の構築を目指した実験を行った。

場所は自社内の工場フロア(3F/600㎡)で、正圧空調とパーティションによりクリーンルーム化し、自社製IJ印刷機、ノンソルラミネーター、巻替検品機、スリッター、製袋機を設置。ラミネート後のエージング室(40℃維持)も設け、オペレーター4名が実製品であるフィルムへの印刷、巻取、製袋品の製造請負作業を行った。実製品の選定には食品メーカー、販売商社、コンバーターの協力を得ており、4000㎡以下の小ロット案件を中心に、少量多品種で納期が非常にタイトなものを厳選した。

結果は、実際に市場へ展開できた製品数が3年間で300アイテム超、一部はリピートオーダーで販売が継続している。同社の高橋永治氏は、「これまでの固定ロットによる製品単価偏重から、少量調達による発注額の抑制、在庫保管コスト、廃棄コスト削減の意識の高まりに加えて、新製品展開のしやすさや、天候等による市場変化に対する順応性など、短納期に対する付加価値の向上も含めて評価に繋がっている」とした。さらに、環境意識の高い企業の受注が進んだのではなく、従来型の包材調達モデルの限界が示されものであるともし、「必要な量を迅速に使いたい食品メーカーや流通業界のニーズをうまく満たした。少ロットに限らず、納期の問題だけで4000㎡以上のロットで対応依頼が入ることもあったが、工場のキャパシティの問題で断る案件も複数発生したほど」と述べた。